

令和2年度 1学期終業式 校長講話

令和2年7月23日

長野県蓼科高等学校長 宮澤和人

みなさんこんにちは。

新型コロナウイルス感染拡大防止策として、1学期は前例のない異例の年度初めからの臨時休業になりました。6月1日に学校再開となり、今日まで2ヶ月もしないうちに終業式になりました。この間、マスク着用やうがい手洗い、ソーシャルディスタンスですとか、今回の終業式もこのような放送で実施することも含め、様々な場面で生活様式を変化せざるを得なくなりました。皆さんも戸惑いながらも、この生活に慣れてきたころだと思います。

さて、私は1学期の始業式にあたり、2，3年生の皆さんに期待を込めてお話ししたことが2つありました。覚えているでしょうか。

1つ目、それは「いい学校」をみんなで作っていきましょうということです。そのことで、嬉しいことがありました。ひとつは、生徒会の皆さんが自主的に話し合っ、登下校時に挨拶運動を始めたことです。お陰で朝は気持ちのいい声が飛び交い、学校全体が明るくなりました。まさに生徒会のみなさん一人ひとり、この学校を創る「当事者」であるという認識を持ち、「自分の行動はみんなのため」の心構えで行ってくださったものと思います。

もう一つ感動したことがありました。それは先日の土曜日、野球部の代替大会が県営上田球場で行われた時のことです。臨時休業で、校内行事は中止、全部活動は活動停止、予定した大会が中止になったりして、生徒会や各部にはとてもつらい思いをしてきたかと思います。さて、本校は坂城高校との合同チームで、小諸高校と戦うことになりました。得点を入れ突き放そうとする小諸に対し、追いつがる蓼高・坂城連合チーム。とうとう9回裏に連合チームは追いつき、小諸に対し大手をかけました。特に、主将の佐藤君の味方を励ます掛け声とその不屈の闘志は、見ているこちらにも最後の大会にかける迫力が伝わってきました。残念ながら、試合は延長戦で負けてしまったのですが、試合後マスコミの取材でも、佐藤君はきっぱり「試合に悔いはありません」と言い切ったそうです。それは、コロナ禍の苦しい中でも最善を尽くして練習してきて、本番で力を出し切ったからこそ言える言葉だったと思います。そのような本校野球部の態度は、見ている者すべてに感動を与えました。

2つ目は「いい学校」と同時に高校生活の中で「いい人間関係を築いてください」ということでした。

私たちは、生徒同士も生徒と先生もそうですが、縁あって出会い、蓼科高校で同じ時間、同じ空間を共有し、一緒に学んでいます。時にはぶつかり合い、気まずいことになることもあると思いますが、互いに色々な経験をして、悩んだり考えたり我慢したり、喜んだり

楽しんだりする中で人間関係を学んでいくのだと思います。学校という場で、集団で学ぶ意義の一つに「人間関係を学ぶ」、「互いに影響し合い高め合う」ということがあると思います。完璧な人間なんていません。自分が気に入らないのでいろいろその人の欠点をあげ、存在を否定するのではなく、その人の良い点を考え逆に自分が改善しなければならないことに思いを巡らせてみてください。

また、相手の人権をないがしろする行為、差別やいじめ、人をさげすむような言動は絶対に許されないことです。冗談のつもり、ふざけただけと思っても、相手を傷つけるようなことは絶対にいけません。私たち職員も皆さんが安心安全な学校生活送ってもらえるよう、体罰の防止など、校内ルールを決めて対応しています。ホームページにも掲載してありますので、見ておいてください。

最後に、来週の補充期間も授業日ですので、引き続き気を引き締めて臨んでください。夏休みはそれからです。目的もなくだらだらと過ごすであっという間に終わってしまいます。まず、夏休み中にこれだけは必ずやるということを決めましょう。そして、決めたことは必ずやり遂げましょう。そこに必ず人間的な成長があります。

8月の始業式には、成長したみんなに会えるのを楽しみにしています。

元気ががんばりましょう。

終わります。